

## 鹿児島港中央港区開発推進協議会 平成30年度研修会 報告書

平成31年2月15日（金）13：30から、標記研修会を開催しました。

今回は、中央港区開発に関する知識の習得を図るため、「臨港道路鴨池中央港区線について」と「貯木場を活用した各地マリーナについて」を演題とし、約70名の会員に参加していただきました。

柴立 鹿児島港中央港区開発推進協議会会長から、開発の現状及び将来見通し等を含めた挨拶がなされました。

その後研修に入りましたが、まず、「臨港道路鴨池中央港区線について」 県土木部港湾空港課の黒川 港湾対策監から、①鹿児島港の役割や特徴等について、②臨港道路とは、③臨港道路の歴史について、④鴨池中央港区線の計画について、⑤鴨池中央港区線の事業化について、⑥鴨池中央港区線の構造について、資料やスライドを活用し丁寧な説明がありました。

また、中央港区の最近の動きとして、①臨港道路がH29に新規事業化され、H34まで280億円の計画で整備される。②H30からは官民連携による国際クルーズ拠点としてマリポートかごしまに新たな岸壁を2022年までに整備する。③木材港の埋立については、県民と観光客の交流拠点、周辺の土地利用規制に合わせる、東西幹線道路や北バイパスの公共残土を活用して埋め立てる、埋立に向けた手続きを進めるという旨昨年9月議会で説明したところ。中央港区は今から開発が目白押しであるとの説明がありました。

次に当推進協議会事務局の鹿児島木材産業協同組合 脇 専務理事から「貯木場を活用した各地マリーナについて」と題して、これまで調査・研修で訪問した東京夢の島マリーナ、横浜ベイサイドマリーナ、木更津マリーナ、神戸カールモマリーナ、ポートパーク広島の5か所のマリーナについて、スライドを使用した説明がありました。

研修終了後質疑応答があり、内容は以下のとおりです。

- (Q) 臨港道路の必要性は認めるが、南港はどうなるのか。埋立は大変な問題である。
- (A) 橋ができることによって貨物船が通れなくなり、事業活動ができなくなる。国・県・市一緒になって丁寧に説明し、ご理解をいただけるよう手続きを進めているところ。

(Q) クルーズ船の影響で交差点が渋滞している。渋滞緩和につながるよう優先順位をつけて道路整備をしてほしい。

(A) 船舶を使った対策も検討している。

(意見) 鹿児島港は大型船向けの整備がなされ、中小型など一般市民向けの整備がなされていない。木材港は台風時の中小型船舶の避難場所として最適である。市民向けの港の整備を進めてほしい。

講師を引き受けていただきました県土木部港湾空港課の黒川 港湾対策監には深く感謝申し上げます。

今回の研修は、鹿児島港の歴史や役割、将来計画という幅広く具体的な講演内容で大変有意義な研修だったと思います。今後とも地域振興につながる開発計画を推進するための研修を行ってまいります。

協議会活動や研修等に関する意見等ありましたら、事務局までご連絡ください。